

# 2021 年度事業報告

2021年4月1日～2022年3月31日

東京学芸大学次世代教育研究センター

## 1. 研究活動

### (1) プロジェクト

- ・教育実習プロジェクト（担当：櫻井眞治・宮内卓也・林正太）
- ・在外教育施設における教育実習プログラムの開発（担当：岩田康之）
- ・学びの目的に関する研究（担当：金子真理子）
- ・中途入職教員に対する研修と処遇（担当：前原健二）
- ・学校と外部機関の連携と教育の公共性に関する研究（担当：上杉嘉見）
- ・教員養成大学・学部における大学教授職の在り方と組織開発（担当：下田誠）
- ・大学と附属学校が連携した理科の授業づくりの指導を通じた教育実習指導教員の資質に関する検討（担当：宮内卓也）
- ・教員養成の構造変容に関する研究（担当：岩田康之）
- ・創成期の東京学芸大学のカリキュラムと学生生活（担当：金子真理子）

### (2) シンポジウムおよびセミナー

- ・教育実習研究シンポジウム「教育実習を指導する教員の資質・能力とは」

Zoomによるオンライン開催（2021年12月1日）

主催：東京学芸大学次世代教育研究センター（FD研修認定）

趣旨説明：宮内卓也

報告：林 正太（次世代教育研究センター教育実習プロジェクトチーム特命教授）

細井宏一（東京学芸大学附属大泉小学校副校長）

山本勝治（東京学芸大学附属国際中等教育学校教諭）

全体協議：(1) 教育実習を指導する教員に求められる資質・能力とは？

(2) 学生の教職志望を高めるために、教育実習を通して何ができるか？

総括：櫻井眞治

- ・第3回公開セミナー「イギリスの教師と学校」

Zoomによるオンライン開催（2022年2月20日）

主催：東京学芸大学次世代教育研究センター

報告：高野和子（明治大学教授・東京学芸大学次世代教育研究センター国内客員教授）

「教員不足から見えるもの—問題のイギリス的文脈と日本への示唆」

報告：金子真理子（東京学芸大学次世代教育研究センター教授）

「5歳の子どもの経験したイギリスの小学校一日英比較の視点から」

コメンテーター：青木研作（東京成徳大学子ども学部教授）

### (3) 客員教授研究会

- ・国内客員教授研究会

報 告：高野和子明治大学教授

第1回（2021年8月23日）

題目：「イングランドを対象として“大学と教員養成”を考えるとということ」

第2回（2021年10月21日）

題目：「学校における教員養成への移行—イングランドの場合—」

第3回（2021年11月18日）

題目：「教員不足を考える—問題のイギリス的文脈と日本への示唆—」

第4回（2021年12月16日）

題目：「明治大学の教員養成—大学教育のなかの教員養成教育を考える素材として—」

第5回（2022年1月18日）

題目：「「教職課程コアカリキュラム」と「参照基準（教育学分野）」—二つの文書を手がかりに教員養成の質保証を考える—」

第6回（2022年3月17日開催予定）

題目：「再び、イングランドにおける“大学と教員養成”を考える」

### (4) 研究交流活動

- ・第35回日本教育大学協会教育実習研究部門研究協議会

「新型コロナ禍での教育実習2」於オンライン（2021年10月1日）

研究発表4本 28大学・50名の参加

常任理事（事務局）を担当（教育実習プロジェクトチーム）

- ・東京地区国公立大学教職課程研究連絡協議会 常任運営委員校を担当

年10回の運営委員会に参加，年2回の研究大会を企画開催（教育実習プロジェクトチーム）

## 2. 教育活動（教育実習プロジェクトチーム）

- ・教育実地研究後において教育実習委員会より補充指導等を依頼された学生の指導

- ・3年次教育実地研究Ⅰ・4年次教育実地研究Ⅱ，選択実習のメンタルヘルス支援

- ・1年生（教育支援系）教育実習ガイダンス（中学・高校実習1回）

- ・2年生教育実習ガイダンス（小学校実習3回，中学・高校実習3回）

- ・3年生教育実地研究Ⅰの事前指導共通講義（小学校実習4回，中学・高校実習3回）

\* COVID-19流行下のため，2021年度は回数を変更して実施

- ・4年生教育実地研究Ⅱオリエンテーション共通講義①②

- ・4年生選択実習直前指導（小学校実習1回，中学・高校実習4回）

- ・学部担当授業 観察実地研究，教職入門，中等理科教育法Ⅲ

- ・教職大学院担当授業 子どもと教師がともに力を発揮してつくる授業，  
実験を通じた探究的な活動

### 3. 社会貢献活動（教育実習プロジェクトチーム）

- ・教育委員会等に対する支援

新宿区小学校生活科・総合的な学習教育研究会，豊島区立巣鴨小学校（2），武蔵野市立境南小学校（3），江戸川区小学校社会科教育研究会，江戸川区立清新ふたば小学校（7），江戸川区立一之江小学校（3），三鷹市小学校生活科・総合的な学習教育研究会，青梅市小学校社会科教育研究会，町田市立小山小学校（7），横浜市立青木小学校，成城学園初等学校（4），日本女子大学附属豊明小学校（2）

東京都理化教育研究会，石川県教員総合研修センター，鳥取県教育センター，練馬区中学校教育研究会

国分寺市立第五小学校（11）

### 4. 研究助成

#### (1) 特別教育研究推進経費（特別開発研究プロジェクト・大学院教育改善プロジェクト）

- ・「大学で附属学校が連携した理科の授業づくりの指導を通じた教育実習指導教員の資質に関する検討」（2021～2022年度）プロジェクトリーダー 宮内卓也
- ・「実務家教員との協働による教員養成高度化を目指した新たな大学院教育課程の開発」（2021～2022年）プロジェクトリーダー 下田誠

#### (2) 科学研究費助成事業

##### 専任教員・研究代表者分

- ・基盤研究（C）「学びの目的に関する研究—「理科」と「社会科」の間—」（2018～2022年度）研究代表者 金子真理子
- ・基盤研究（C）「ワーク・ライフ・バランスの視点を踏まえたドイツの教員研修改革の比較制度論的探究」（2019～2021年度）研究代表者 前原健二
- ・基盤研究（C）「教師の職能成長プロセスにおける在外教育施設等の活用と効果検証に関する調査研究」（2021～2024年度）研究代表者 岩田康之
- ・基盤研究（C）「学校における企業の教育活動と公共の利益に関する国際比較研究」（2021～2023年度）研究代表者 上杉嘉見

##### 専任教員・研究分担者分

- ・基盤研究（C）「教職キャリアの多様化を見据えた「中途入職教員」活用に関する教育行政施策の研究」（2019～2021年度）研究分担者 前原健二（研究代表者 青木純一）
- ・基盤研究（B）「歴史教師のプロフェッショナルコンピテンシーを高めるピリーフ研究の再構築」（2019～2021年度）研究分担者 上杉嘉見（研究代表者 宇都宮明子）
- ・基盤研究（B）「「教える」専門家の養成を学問として構築する「教育学」モデルの研究」（2019～2022年度）研究分担者 岩田康之（研究代表者 生田久美子）
- ・基盤研究（B）「大規模国際調査の授業ビデオを用いた授業実践の質的変容の分析と授業改善に関する研究」（2019～2023年度）研究分担者 宮内卓也（研究代表者 松原憲治）
- ・基盤研究（C）「テーマ型・総合型の教育活動を推進する教員の資質能力に関する日独比較研究」

(2020～2022年度) 研究分担者 金子真理子 (研究代表者 望月耕太)

- ・基盤研究 (B) 「教育経営システムの構造変容に関する総合的研究：社会総掛かりでの教育の実現に向けて」(2020～2023年度) 研究分担者 前原健二 (研究代表者 南部初世)
- ・基盤研究 (B) 「「大学における教員養成」の再構築に関する理論的・実証的研究」(2021～2023年度) 研究分担者 岩田康之 (研究代表者 鹿毛雅治)
- ・基盤研究 (C) 「リスク社会と教員養成の研究—With coronaのなかの問題解決思考の育成—」(2021～2023年度) 研究分担者 金子真理子 (研究代表者 坂井俊樹)

#### 名誉教授・研究代表者分

- ・基盤研究 (C) 「義務教育段階の理科／科学教育における「価値選択的課題」の実証的国際比較研究」(2020～2022年度) 研究代表者 三石初雄

#### 名誉教授・研究分担者分

- ・基盤研究 (C) 「学びの目的に関する研究—「理科」と「社会科」の間—」(2018～2022年度) 研究分担者 三石初雄 (研究代表者 金子真理子)

## 5. その他の活動

### (1) 教育・研修プログラムの開発

- ・キャンパス・アジア「東アジア教員養成国際大学院プログラム」におけるダブル・ディグリープログラムの開発・運営に、キャンパス・アジア推進室・室員として参画 (下田誠)
- ・教員養成開発連携センター研修・交流支援プロジェクトにおける「教員養成ならではの大学教職員PDプログラム」の開発・運営に同センター兼担として参画 (下田誠)

# 東京学芸大学次世代教育研究センター紀要規程

## 1. 紀要の目的

本誌は、学校教育、教員養成、現職教員育成、教育支援者養成を有機的に捉えて、次世代教育の在り方について調査・研究し、次世代教育に係るカリキュラムやプログラム等を研究・開発し発信することを目的とするセンターの紀要として、所員等の研究成果を広く内外に公表するために刊行する。

## 2. 編集委員会の役割

本誌の編集・刊行は、次世代教育研究センター編集委員会が行う。編集委員会は、本誌の目的に準じて原稿を掲載する。

## 3. 投稿原稿の要件

投稿原稿は原則として未発表のものとする。ただし、口頭発表やその配布資料、発表要旨集等はこの限りではない。

## 4. 投稿資格

本誌は本センターに所属するセンター長・専任教員・特任教員・兼任教員・客員教授・共同研究員が投稿責任者として執筆するものとする。ただし、編集委員会が認めた場合は、その限りではない。

## 5. 投稿原稿の種類

投稿原稿の種類は、研究論文と研究報告とする。ただし、編集委員会が指定したものについてはその限りではない。

- (1) 研究論文は、紀要の目的に関わる独創性のある実証的または理論的な論考
- (2) 研究報告は、紀要の目的に関わる報告のうち編集委員会で掲載を認められたもの

## 6. 執筆要綱

研究論文は別に定める執筆要綱に示す投稿方法及び形式に基づき作成する。

## 7. 投稿と校正

研究論文の投稿者は、次の要領に従い、投稿・校正を行うこととする。

- (1) 研究論文の投稿は、別に定める投稿締切日までに、次の提出先へ提出する。

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学 次世代教育研究センター 編集委員会

- (2) 研究論文の著者校正は再校までとし、図版は初校のみとする。校正は所定の期限内に行い、すみやかに返却すること。なお、校正の際に、原文を変更することは認めない。校正の送付先は前記投稿提出先とする。

## 8. インターネット上での公開

本誌に掲載された研究論文は原則としてインターネット上に公開する。

2019年11月30日決定

# 東京学芸大学次世代教育研究センター紀要執筆要綱

## 1. 論文の構成

研究論文は、題目・著者名・著書所属・本文・論文題目・欧文著者名・欧文著者所属先・欧文要約・欧文キーワード（ERICのシソーラスに準ずる）を含むものとする。

## 2. 論文の言語

日本語または英語とする。

## 3. 論文の形式

研究論文の形式は下記の通りとする。

- (1) A4版用紙横書き40字×40行、10.5ポイント明朝体とする。
- (2) 欧文著者名・欧文著者所属先・欧文要約・欧文キーワードは研究論文の末尾に付すものとする。
- (3) 引用文献・参考文献は研究分野の通例に準拠し、当該研究論文の中では統一させる。
- (4) 章名のフォントはゴシック体とし、1, 2, …を冒頭に付し、センタリングする。
- (5) 節名のフォントはゴシック体とし、1. 1, 1. 2, …を冒頭に付し左寄せする。
- (6) 項名のフォントはゴシック体とし、1. 1. 1, 1. 1. 2 …を冒頭に付し左寄せする。
- (7) 原則として常用漢字・現代仮名遣いを用いるものとする。特殊文字・記号を用いる場合は、その旨をプリントアウトした原稿の当該箇所に赤字で示すこと。

## 4. 投稿方法

- (1) 投稿時には、プリントアウトした論文1部と電子データ（DVDやUSB等の記録メディア）を提出する。投稿者は論文の控を手元に保管すること。
- (2) 投稿時には、別に「紀要論文等に関するチェックシート」とインターネット上での公開を承諾する「承諾書」を提出すること。
- (3) 図版は論文本文中に貼り付けてもかまわないが、別に印字に耐えうる解像度を備えたJPEG等の形式により記録メディアに保存の上、提出すること。

2019年11月30日決定